
つづく展青森開催要項

1 趣旨

デザイナーの皆川明（1967-）が設立したブランド、ミナ ペルホネン。流行に左右されず、長年着用できる普遍的な価値を持つ「特別な日常服」をコンセプトとし、日本各地の生地産地と深い関係性を紡ぎながら、オリジナルの生地からプロダクトを生み出す独自のものづくりを続けてきました。

皆川がミナ ペルホネンの前身となる「ミナ」を立ち上げたのは1995年。「せめて100年つづくブランドに」という思いでファッションからスタートした活動は、その後、インテリアや食器など次第に生活全般へと広がり、現在ではデザインの領域を超えてホスピタリティを基盤にした分野へと拡張しています。そのたゆまぬ歩みは、2020年に25周年を迎えました。

本展覧会の「つづく」というタイトルは、文字通りブランドの時間的な継続性を示すものですが、それだけでなく、つながる・連なる・手を組む・循環するなど、モノや人が連鎖し何かを生み出していく生成のエネルギーを想起させる言葉でもあります。

多義的な意味をもつ「つづく」をキーワードに、本展覧会では、生地や衣服、インテリア、食器等のプロダクトに加えて、デザインの原画、映像、印刷物、皆川明の挿絵など創作の背景を浮き彫りにする作品群や資料も併せて展示いたします。ミナ ペルホネンと皆川明のものづくりとその思考をこれまでにない規模で紹介する本展覧会は、私たちの日常生活やその先にある社会の仕組みについて新たな視点と示唆をもたらすことでしょう。

※青森県立美術館では、2009年より同ブランドのデザインによるスタッフユニフォームを採用しています。

展示構成：田根剛（Atelier Tsuyoshi Tane Architects）

展示構成補助：阿部真理子（aabbé）

グラフィック・デザイン：葛西薫（sun-ad）

2 展覧会概要

(1) 名称 ミナ ペルホネン／皆川明 つづく

(2) 会期 2022年7月16日(土)-10月2日(日)

開催日数 74日 (79日間)

休館日：7月25日、8月8日、8月22日、9月12日、9月26日（第2、第4月曜）

(3) 会場 青森県立美術館 展示室

(4) 観覧料 一般 1,500円 (1,300円)

高大生 1,000円 (800円)

小中学生無料

※ () は Web チケット、20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

※前売り券販売の有無はコロナウィルス等感染拡大の状況等を見て判断

3 主催

つづく展青森実行委員会（青森県立美術館、株式会社朝日新聞社、青森県観光連盟）

4 後援

青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、エフエム青森、東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森県教育委員会、青森市教育委員会

5 展覧会構成と主な展示作品

実 tambourine タンバリン

(裏面あり)

ミナ ペルホネンを代表する刺繍柄の tambourine（タンバリン）に焦点を当てて、ひとつのデザインが生まれてから、生地になり、洋服やインテリアなど様々なプロダクトに展開していく様子を紹介します。

※tambourine（タンバリン）は、当館スタッフユニフォームの生地としても使用されています。

森 pieces of clothes 洋服の森

設立当初から 2020 年春夏コレクションまでの約 25 年分の服を一堂に集め、年代をミックスして展示します。

風 life and design 生活とデザイン

ミナ ペルホネンの服を着ている人の「日常」を、映像作品でご覧いただきます。山形、沖縄、東京、パリの 4 都市を舞台に、4 人の愛用者の生活や仕事に密着し、その日常を追いました（制作：藤井光）。

芽 designs for textiles テキスタイルのためのデザイン

ミナ ペルホネンのものづくりの特徴は、生地からデザインして、洋服に仕立てることです。ここでは、生地のためのデザイン画を紹介します。プリント用原画、織物用原画、刺繍用図案は、その後、それぞれ国内有数の生地工場に手渡され、時間をかけてテキスタイルへと作り上げられます。

種 idea and study アイデアと試み

ミナ ペルホネンの幅広い活動の根幹にある皆川明とミナ ペルホネンのものづくりの哲学やアイデアを、過去・現在・未来の試みを通して紹介します。

根 drawings 挿画

皆川明の個人の活動にスポットを当て、新聞連載のために描いてきた挿画をまとめて紹介します。

土 memory of clothes 洋服と記憶

ミナ ペルホネンの服とその持ち主との関係性に焦点を当て、個人が所有している愛用品 15 点を、彼らが語るエピソードと共に紹介します。

空 25years

ミナ ペルホネンの活動は、2020 年に 25 周年を迎えました。これまでの活動の軌跡と、皆川明がこの展覧会に込めた思いをインタビュー映像でご覧いただきます。

6 関連企画案

○開幕記念鼎談

日時：2022 年 7 月 16 日（土） ※時間未定

出演：青木淳（建築家）、菊地敦己（アートディレクター）、皆川明（ミナ ペルホネンデザイナー） ※敬称略

会場：青森県立美術館シアター

○展覧会プレワークショップ

日時：2022 年 6 月 2 日（木）10:25～、2022 年 6 月 3 日（金）13:30～

場所：青森市立合浦小学校（2 日）、青森市立三内西小学校（3 日）

参加者：各学校生徒

※その他、ライブイベント等を開催予定